

四月よみとりおけいこ⑤（低）

名まえ（

まえにさえずりのことをおはなししましたね。きょうはききなしのおはなしをしてみましよう。ききなし、というの、とりのさえずりを人のことばにあてはめることをいいます。

一ばんゆうめいなのは、ウグイスです。「ホー、ホケキヨ」とはみなさんもしっていますね。あれにはかんじがあります。「法、法華經」とかきます。おしやかさまのおしえを法といいます。法華經というのはお経の一つです。ですから、むかし日本人のほとんどがそれをしんじていたところは、ウグイスはありがたいとりでした。

コノハズクのさえずり「仏法僧」（ブツポウソウ）も有名です。仏はおしやかさま、法はおしえ、僧はおぼうさんのことです。

メジロのさえずりは「長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛」と、えぞじだいにおおかつた名まえにあてはめられました。

「特許許可局」というのは早口ことばのようですが、ホトトギスのさえずりをあらわしたききなしです。もともと、ホトトギスはほかにたくさんききなしがあつて、よくしられているのは「てっぺんかけたか」（山のてっぺんをはしったか？）ですが、おさけの大すきな人には「一ぱいつけたか」（おさけのおかんができたか？）ときこえるそうです。また、おてらの小ぞうさんには「ぞうきんかけたか」ときこえたのだそうです。

こうしてみると、ききなしには、さえずりをきく人がなにをかんがえているのか、ということがかんけいしていることがわかりますね。おんどくサイン↓

① なんのはなしですか？

（

② ききなしとはとりのさえずりをなににあてはめることですか？

（

③ 上の文にはなんしゆるいのとりがでてきますか？

（

④ ウグイスのさえずりをカタカナでかきましよう。

（

⑤ コノハズクのさえずりをカタカナでかきましよう。

（

⑥ メジロのさえずりをカタカナでかきましよう。

（

⑦ なぜ小ぞうさんにはぞうきんかけたかときこえるのでしよう。

（

⑧ ききなしにはなにがかんけいしているのでしょうか？ぬきだましよう。

きく人が（

）がかん

けいしている。

⑨ あつている文に○をつけましよう。

（ ）メジロのききなしはさいきんおこなわれた。

（ ）つめたいさけをのむことをおかん、という。

（ ）ききなしにはさえずる人がかんがえていることがかんけいしている。

⑩ おもったことを四行にまとめましよう。

できえは？

